

令和4年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	79		学校名		茨城県立鬼怒商業高等学校				課程		全日制		学校長名			岡野 敏昌		
教頭名	上形 勤										事務（室）長名			深谷 充				
教職員数	教諭	35	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	4	実習教諭 実習講師 実習助手	3	事務職員	3	技術職員等	4	計	57		
生徒数	小学科			1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合 計 クラス数				
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	商業に関する学科			54	102							54	102	4				
	商業科					40	71	39	76			79	147	7				
	情報ビジネス科					8	32	12	28			20	60	2				

2 目指す学校像

○保護者や地域の期待と信頼に応え、地域のリーダーとなる「人財」を育成する学校
 ○生徒が自ら考え学ぶことをとおして、一人一人の資質・能力や個性を伸ばす学校
 ○安心・安全な学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学 習 指 導	○休校中のオンライン学習の他、全職員が電子黒板やタブレットを使用する機会が増え、利用技術の向上も見られた。 ○コロナ禍に関わらず、各学年で朝ドリルを計画・実施し基礎学力の向上に努める事ができた。また、先生方が指導内容を工夫し、資格取得では例年どおりの結果を残したり、学びに向かう姿勢に改善が見られる生徒も増加した。 ○休校期間中はオンライン学習で、また通常登校再開後は終業式や始業式の日程、修学旅行等の特別時間割りでは出来る限りの授業時間の確保を念頭に作成、実施できた。	○新教育課程の初年度にあたるので、各教科の「指導と評価の一体化」を念頭に置いた観点別評価の適正な評価規準の作成及び「単元別指導と評価の計画」の導入とその確実な運用。 ○コロナ禍においても着実に基礎学力や学びの姿勢の向上につながるような教員側の体制づくりとICTの更なる活用。 ○各教科・科目等で育成した資質・能力を教科横断的な視点で活用することにより、卒業後の生活に生かすことができるような深い学びへのアプローチについての研究。
進 路 指 導	○キャリアパスポートの活用においては、学年により差が出てしまった。 ○企業の担当者や3年生から説明や体験談を聞くことで、進路活動に前向きに取り組む生徒が増えた。 ○会社見学は100%実施、オープンキャンパスにもかなりの生徒が参加できた。 ○基礎学力に関しては、現状と比較して大きな変化は見られなかった。 ○学校や企業との連絡を密にし、素早い対応ができた。また、ハローワークからも適切な助言をもらうことができた。 ○3年生以外はほとんど進路資料室が活用できていなかった。 ○教員間の情報共有が十分ではなかった。	○進路ガイダンスにおける進路指導部と学年のさらなる連携。 ○学年間の温度差のないキャリアパスポートの蓄積・活用。 ○基礎学力の向上。 ○教員側の負担を軽減するための、面接指導方法の見直し。 ○進路資料室の環境整備。 ○情報共有に必要なコミュニケーションの充実。 ○新システム（「Handy進路指導室」）の活用。
生 徒 指 導	○指導が浸透してきたことから、生徒たちは落ち着いた学校生活を送ることができた。しかしながら、交通事故の発生、交通マナー、学校外のマナーといった校外の部分では状況は思わしくなかった。	○基本的生活、服装容儀、ネットモラルについての継続的な指導。 ○学校外の行動（交通マナー、安全運転、公共マナー）について指導する機会を増やすことによる学校内外で真に社会性のある生徒の育成。 ○社会の変化、多様な価値観をとらえながら指導を工夫し、必要に応じて規則や運用の見直しの実施。

特 別 活 動	○コロナ禍は続いているが、生徒実行委員を組織的に活動させることで、感染対策をしつつ体育的・文化的行事が無事実施できた。生徒間では、感染対策は日常化しつつある。 ○ＩＣＴを活用した行事運営ができた。若手の活躍もあり、ライブ映像の配信が実施でき、各教室で視聴ができた。行事内容については、柔軟性をもって対応し、ほぼ予定通り実施できた。	○部活動の加入率の低下(46%)に歯止めをかけるための工夫。 ○生徒会活動の停滞。活動自体も縮小せざるを得ない部分が多かった。行事運営等を通して改善していく。 ○リモートで実施した行事の実施方法のさらなる工夫及び通信容量改善。
教育活動充実のための業務改善	○定時退勤日を設け、勤務時間の縮減に取り組んだ結果、超過勤務時間45時間以上の職員の割合は減少しているが、生徒の多様なニーズに対応するために、担当する校務によっては長時間勤務となる職員もいた。 ○ＩＣＴ活用に向けた通信環境の改善及び調整の必要。	○業務の効率化の一層の推進と部活動運営に関する校内組織体制づくり。 ○校内研修等の実施による教職員のＩＣＴ活用のスキルアップ。

4 中期的目標

本校の目指す学校像を踏まえ、鬼怒商業高校生としての誇りを持ち、地域のリーダーとなって社会に貢献できる「人財」の育成に努め、活気ある校風の確立を目指す。 そのために、次の6項目を努力目標とする。 1 生徒の個人的資質の向上に努める。 2 商業に関する専門的知識の育成に努める。 3 保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくりに努める。 4 生徒一人一人の資質・能力を伸ばすために、学校全体で取り組む組織づくりに努める。 5 安心・安全な学校づくりに努める。 6 教育活動の一層の充実に向けて、業務の効率化を図る。
--

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 生徒の個人的資質の向上	○基本的生活習慣の確立及び豊かな情操とコミュニケーション能力の向上 ○授業、部活動、学校行事等、学校教育活動全体を通じて達成感、生徒の自己肯定感の向上 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善による、新時代に求められる資質・能力の向上
2 商業に関する専門的知識の育成	○教科内の連携による指導法の共有及び授業公開と意見交換による教員の授業改善 ○タブレット端末や電子黒板等、ＩＣＴ機器を有効に活用した個別最適な学びと協働的な学びの実現 ○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
3 保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくり	○出前授業や学校Webページ等、教育活動の効果的な情報発信による募集人員の定数確保 ○キャリアパスポートの活用及びキャリア教育の充実による進路実現100% ○ボランティア活動や課題研究等、地域社会と連携した体験的学習及び課題解決学習の充実
4 生徒一人一人の資質・能力を伸ばすために、学校全体で取り組む組織づくり	○カリキュラム・マネジメントを推進し、計画的かつ組織的な教育活動の向上 ○PDCAサイクルを機能させ、学校評価と関連付けた教育内容の質の向上 ○組織マネジメントの推進、教職員間の活発な意見交換による学校運営及び業務の改善
5 安心・安全な学校づくり	○生徒が安心して学習に取り組める環境づくり ○いじめ・体罰・災害等の防止及び迅速な対応 ○ホームルーム、授業、二者面談及び三者面談等、生徒一人一人と向き合う丁寧な対応
6 教育活動の一層の充実に向けた業務の効率化	○各業務について、教育の目的達成に適切な方法となっているか不断の見直し ○校内における情報の共有化の推進 ○地域の人的・物的資源を活用した教育活動の推進